

WEEKLY

例会場
ロワジールホテル豊橋 TEL.0532-48-3131
事務局 豊橋市藤沢町141
ロワジールホテル豊橋本館9階 926号室
TEL.0532-35-9973 FAX.0532-39-3743
http://www.toyohashi-golden-rc.gr.jp
email golden@toyohashi-golden-rc.gr.jp

RIメッセージ

地区方針

クラブ方針

フランチエスコ・アレッツォ会長

鈴木康仁ガバナー

神谷馨会長

UNITE FOR GOOD

ともに学び、ともに地域社会に貢献しよう!

新たな時代へ 理想の未来への挑戦
環境変化に対応し、より魅力的なロータリークラブへ

第30回(通算1734回)例会報告		令和8年2月20日(金)	インターシティーミーティング(IM)報告
出席報告	総会員数60名(計算会員数52名) 欠席9名 出席率82.69% 前々回修正出席率90.57%		
歌/会場	スキー	会場: ロワジールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30~	

会長の時間



神谷 馨会長

皆さまこんにちは。本日はプログラム委員会担当のIM報告例会です。担当の皆さまにはご報告をよろしくお願いたします。また2月14日IMにご参加を頂きました

20名の皆さまは大変ありがとうございました。東三河12ロータリークラブの中で最多の参加人数だと思います。IMテーマ「能登半島地震の経験から学ぶロータリアンが実践する南海トラフ地震への備え」との講演で私が一番印象に残ったのは、能登半島と東三河の地形が類似している中で、地震後の津波が予想の30分後ではなく1分後に押し寄せてきたとの話でした。いつ南海トラフ地震がきても被害を最小限に抑えられるように常に意識し、備えていく事を心掛けたいと思います。

愛知県の地域安全対策ニュースが届きました。令和7年中における刑法犯認知件数は56,515件で5,490件10.8%増加となりました。令和4年から4年連続で増加し、中でも特殊詐欺やSNS型投資・ロマンス詐欺、自動車盗、侵入盗は前年に比べ大幅に増加するなど極めて厳しい情勢が続いております。自動車盗件数は1,051件、185件(21.4%)増加しております。「安心して暮らせる安全な愛知の確立」には、皆さまのご協力が不可欠です。防犯力をどんどんアップしていきましょう。

2月13日の第8回理事会にて、3月の例会プログラムを審議いたしましたので共有させていただきます。

3月6日 広報委員会担当例会

ゴールデン RC の広報の歴史について学んだ後に今年度広報委員会の活動について、公共イメージとは、そしてSNS発信について、最後にMyRotary登録推進について進めてまいります。

3月13日 社会奉仕担当例会

動物園講師卓話 トラ舎屠体給餌機贈呈について

3月20日 法定休日

3月27日 プログラム委員会担当 防災危機管理課啓発グループ 専任主査 中島 康範様による卓話で

す。卓話テーマ、豊橋でおきた災害についてお話をさせていただきます。

以上ご清聴ありがとうございました。

次年度地区出向者

ファシリテーター
鬼頭秀幸会員



誕生日祝い

お誕生日おめでとうございます!



宮川嘉隆会員

廣濱成一会員 鈴木紳昭会員

入会記念日祝い

浅井大介会員



人生の岐路『あの時違う人生を歩んでいたら…』



杉田和俊会員

会員スピーチの機会を頂きました、杉田です。本日は「人生の岐路」というテーマで、これまでの転機を振り返ってみたいと思います。

私は子どもの頃、物づくりが大好きで、本気で大工になりたいと思っていました。しか

し中学生の時、自分が高所恐怖症だと気づき、その夢を諦めることとなります。これが最初の岐路でした。

大学ではアモルファスメッキの研究に没頭し、NEC系列で働くつもりでいました。ところが入社直前、祖母が脳梗塞で倒れ、家業を支えるため急遽豊橋に戻る決断をします。もしあの時戻っていなければ、私はPC-98シリーズなど、パソコン創成期の現場にいたはずです。これも大きな岐路でした。

家業に入ってから営業から製造まで全工程を学び、上海の工場も担当しました。そして36歳の時、父から突然「社長を交代する」と告げられ、社長に就任します。翌年には父が脳梗塞で倒れ、結果的に絶妙なタイミングでの世代交代となりました。38歳でロータリーに入会し、梅田会員とのご縁からトヨタ工場内の仕事を頂くようになり、今年で21年になります。もし社長交代がなかったら、もしロータリーに入会していなかったら、今とは全く違う人生だったと思います。

人生には、後から振り返ってみると「岐路だった」と気づく瞬間があります。これからも人生の岐路を楽しみながら歩んでいきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。



札木聖巳会員

私は静岡県の旧清水市の生まれで、父は小糸製作所という自動車のヘッドライトやテールランプを作っている会社で、主に機械設計を担当しておりました。

私がちょうど小学校2年生の時に、この小糸製作所において4灯式角型シールドビームのヘッドランプが米国で法規制されたことから、試作品の開発に成功し、1976年に米国承認を取得し、当時設計に携わった父が、アメリカのシカゴに既にあった事務所への異動を会社から受けることになりました。

しかし、その時同時に石川県能登半島にある父の実家が生コンプラントを営んでおり、セメントを保管するサイロの建設に伴いコンクリートの調合機械操作をして欲しいという父の兄からの願いと、二つの選択を迫られることになりました。

そして、父は苦渋の決断で実家の生コンプラントを手伝う選択をし、家族で能登へ移る結果となりました。当時母親はデパートもバスも走っていない田舎への移住で精神的にまいってしまい寝込む日々が続き、私もちょうど3年生から本格的に清水FCへの入会を決めていたことが白紙となってしまい、悔しくさんざん泣いたことは忘れることのできない記憶です。清水東の三羽鳥、長谷川健太、大榎、堀池の時代の3つ下になります。私に能登もアメリカも関係なければ、Jリーガーだったかもしれません。

能登の小学校はどこも相撲の土俵はあってもサッカー

ーゴールがどこを探してもなく、サッカーボール蹴っている子供もいない状況でした。私は一人テニスコートのネットにボールをけり込んでひどく叱られたこともありました。

そんなことで、能登で高校卒業まで育ててもらい、自分は父が小糸製作所でやりたかったことをやってみたくて決めていたので、大学は勿論、機械工学科を目指し受験をしましたが、滑り止め大学は合格したものの、どうしても私を不合格にした愛知工業大学の機械工学科にあきらめがつかず、浪人という形で田舎を後にし、名古屋に出て参りました。

名古屋では、河合塾のあっせんする18000円の4室あるとても古い下宿に住むことになり、バイトも探しながら浪人生活がスタートしました。

1週間が過ぎた頃、4室あるうちの2名の方と仲良くなり、一人は同じ年齢の方、もう一人は、なんと4つも年が上の5浪目の方でした。この5浪目方が高知テレビ放送の役員の息子さんと、着ている服も全てDCブランドで、それまでの浪人生活は東京で過ごされており、そこでなんとこの方は浪人の立場で東京のマハラジャ麻布本店でバイトされ、カウンターチーフまで上り詰められた方でした。とんねるずのタカさんやノリさんとは友達だったとのこと。

当然勉強もせず受験もせず、親がシビレを切らし東京の遊びの生活から改めさせるため、名古屋の予備校へ移らせて、アパートも下宿となったそうです。

まず、この方との出会いが私の人生の分岐点でした。

彼とは年が離れていたものとても互いに気が合い、いつも行動を共にしていた中、ある日フダちゃんマハラジャに行ってみない？と誘われ、初めてディスコデビューしたのが、名古屋栄の住吉町にあるマハラジャウエストというディスコでした。

それからマハラジャにはまり、田舎者の私にとってはミラーボールが回って、ユーロビートで踊って毎日がお祭りの様でした。当時マハラジャは女性同伴でないと男性は入れないところ、初めの入店の際は、その彼が自身のカウンターチーフの名刺を出して、顔パスで入店することができました。

また、当時はトム・クルーズのハスラー2が上映され、あちらこちらでプールバーがあり、とてもビリヤードが流行した時代でした。私もそのビリヤードにハマり、夜はディスコかビリヤードという生活でした。

皆様ご想像に通り、予備校に行くこと日に日になくなり、昼間は夜の夜遊ぶためにバイトに明け暮れました。ある日、知り合いの誘いで一日15000円稼げる日雇いがあると聞き、早速作業服屋で寅壺上下と買って、名古屋駅のかつてあったレジャックの笹島交差点デビューを果たしました。

初めてやるのに、ポケットに手を突っ込んで交差点へ向かうといきなり17000円のプラカードを持った方に

スカウトされ、行った先は三菱重工が施工する守山のアサヒビール工場の高さ 30M 以上あるサイロの外部足場組の現場でした。

やったこともなかったのですが、意外と高所に強い自分がいて、2 週目からほぼ職長の立場で現場に向かい、手当も増え毎日 2 万円をもらうようになり、月収 45 万はあったかと思えます。

そんな中、いろいろな場所で足場を組むようになったときに出会ってしまったのが、「建築現場」でした。ここで私も小糸の夢よりも、建築現場の監督に憧れを持つようになり、大きく人生が変わるきっかけとなりました。

一方でそんな勉強もしていない私に対し、能登の実家の方へ一度受験をしたきっかけから愛知工業大学から、今の愛工大名電高校の間借りで、建築専門課程の専門学校を開校する案内がありました。

そして、迷うことなく私は大学をあきらめその専門学校へ通うこととなり、当然のバイトを続けながら、学費も稼ぎながらなんとか卒業し、名古屋の水野工務店という南区の中小の総合建築業に努めることとなりました。そこでは鉄筋コンクリート造やSRC造を中心に現場監督を経験し、27 歳で結婚し、30 歳のときには 2 人の子供に恵まれました。しかし、学生の時は 45 万ほどあった月収も、就職した初任給は 15 万くらい 30 歳になっても年収も少なく、家もなく会社の社宅アパートで 2 人の子供を育てるのに食費を削るなど、家内には本当に苦勞をさせてしまいました。

そんな時、ようやく自身も夢であった一級建築士を取得することができ、給料のアップを社長へ直談判させていただきましたが叶いませんでした。10 年築いた自身のキャリアも大事でしたが、家族を早く幸せにたく、一か八かで「住友」の名がつく木造の会社を受けてみようと思い、今の住友林業に入ることが出来ました。2000 年に転職し 2023 年までの 23 年間現場一筋にやってきましたが、全国の当社の現場マンに頑張れば主管者になれるという希望を持たせたかったことから、長年の希望がようやく叶い支店長になることができました。正直、あの時小糸を目指していたらどうなっていたかはわかりません。それより先の父親がアメリカを選択していたら大きく人生は変わっていたかもしれません。

現在私も、従業員 55 名が在籍する支店の代表者として支店長を務めております。

私共の支店はこの東三河エリアにおいて、豊橋に事務所を 1989 年に構え、建築施工はその数年前から実施していることから、この地にお世話になって 40 年となりました。

数ある木造建築会社の中で、2000 年頃には年間 75 棟程度の着工数でありましたが、2015 年以降は年間 100 棟を超え、木造軸組建築では着工シェア NO.1 となりました。

また現在では、様々な種類の工法の建築がございます

が全てにおいて、この東三河においてトップスリーに入る着工シェアとなりました。

ちなみに、この東三河全体の持ち家戸建ての着工数が年々減少している中、2024 年度の 1 位はやはり一条工務店さん 180 (ツーバイ工法：145、木造 35) 2 位は積水ハウスさん 111 (鉄骨：52、木造：59) 3 位住友林業 86 (木造 BF 構法：86) となります。

おかげさまで、現在までこの東三河エリアにおける当社がお引渡しさせて頂いたお客様の総数も、3400 件の規模となり、これからも当社で建築されたお客様は本より、戸建ての注文住宅事業を通じ、従業員ならびに協力施工店様やお取引業者様と地域に密着し、継続的に持続可能な事業を行っております。

私もこの豊橋にいる限り、自身の仕事と、このゴールデン RC を通じ、しっかりと皆様と共に学び、努力し、この東三河の地域で事業をしっかりと継続させ、かつ地域に貢献できるよう努めて参りたいと存じます。またいずれ私が異動となる場面があるかと思いますが、継続して後任に引き継ぐ決意しておりますので、どうぞ今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

インターシティーミーティング (IM) 報告

初めて参加して

高瀬啓輔会員



そもそも IM とは何かを知らないまま、ただ参加さえすればよいと考えていたのですが、思わぬスピーチ依頼で、IM について情報収集することになりました。IM 当日の感想としては「大きなイベントでホストクラブは大変だな」くらいの感想しかなかったのですが、むしろ参加後、今回の報告までの 1 週間の方が情報の再確認や IM について考える機会が多かったと感じます。「東三河分区」「ガバナー」「ガバナー補佐」など組織や役割について、IM 開催の意義やその向き合い方。今まで点でしか見えていなかったことが少しだけ線で繋がるようになりました。今回スピーチ依頼をされたときは、正直、参加義務にスピーチまでついてくるなんて勘弁してほしいと思いました。ですが今回に関してはスピーチ依頼があったからこそ、いろいろ学ぶことができ貴重な体験になったと大変感謝しております。ただスピーチは苦手なのでできれば遠慮したいと切に願います。

式典の様子を見て

後藤浩司会員



「式典の様子を見て」という事で、2026 年 2 月 25 日 2 月 14 日にホテルアソシア豊橋にて行われた、インターシティーミーティングの式典の様子をご報告いたします。

13時15分より式典が始まり、点鐘、国家斉唱、ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱、ホストクラブ会長挨拶、ガバナー挨拶、来賓紹介、出席クラブ紹介、ガバナー補佐挨拶、次期ガバナー補佐紹介、次期ガバナー補佐挨拶というプログラムにおいて厳かな雰囲気の中式典が執り行われ13時50分に終了いたしました。

その中で、大沢ホストクラブ会長と榊原東三河分区ガバナー補佐の式典の挨拶の概要をお伝えします。

大沢会長より2025-26年度国際ロータリー第2760地区東三河分区インターシティーミーティングの開催にあたり、東三河12クラブの会長をはじめ、多くの会員の皆さまにご参加いただき、心より御礼申し上げます。本年度IMのテーマは、「能登半島地震の経験から学ぶロータリアンが実践する南海トラフ地震への備え」を掲げさせていただきました。IMでは、講演やパネルディスカッションを通して、防災に対する理解を深めるとともに、ロータリアンとして地域社会で実践すべき行動を考える機会としてまいります。本事業が、いざという時に行動へとつながる気づきとなり、今後の奉仕活動や地域防災への取り組みに活かされることを期待しております。

続きまして、榊原ガバナー補佐より2025～26年度蒲郡ロータリークラブから鈴木康仁（やすひと）氏が、ガバナーとして輩出されています。その記念すべき年度に私がガバナー補佐を務めさせていただく事を大変に嬉しく思い、累張しつつ東三河分区12クラブを訪問させていただきました。各クラブの方々に暖かく迎えていただきましてありがとうございました。

今回IM（インターシティーミーティング都市連合会）を開催するに当たり、各クラブの会員の方々に、ポリオ協賛を含めいろいろな点でご協力いただきまして感謝しています。本年度は地震を取りあげたいと思い、この様な企画をしました。1995年1月阪神・淡路大震災、2011年3月東日本大震災、2024年元日能登半島地震そして今後、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などが発生してもおかしくない状況だと言われています。各人それぞれでどうしたら犠牲者を減らし、インフラ被害を減らせるか、皆様と一緒に考えてみたいと思います。今後も「東三河はひとつ」の心で、ロータリー活動をさらに進めて行きましょう。

挨拶の概要は以上となります。

講演を聞いて

鈴木雅人会員



お疲れ様です。先日開催されましたインターシティーミーティングでの講演についてということで、自分講演を聞いて感じたことをお話しさせていただきます。

今回のテーマは「能登半島地震の経験から学ぶロータリアンが実践する南海トラフ地震への備え」でした。北海

道大学名誉教授の平川一臣先生、能登ロータリークラブ23-24年度会長の三宅一宏様、独立行政法人中小企業基盤整備機構中部本部の仲保吉正様、そして経済産業省中部経済局の迎方子（むかえまさこ）様という、産官学それぞれの立場から4名の講師をお招きし、講演とパネルディスカッションが行われました。

個人的にその中で最も興味深かった事は、能登半島の地盤変動についてです。報道では日本海側の隆起についてはよく知られていましたが、本州側が液状化ではなく、地盤そのものが広範囲に沈下しているという事実を初めて知りました。その結果、現在も高潮により海岸付近の家屋が繰り返し浸水被害を受け続けているとのこと。さらに、この沈下は今後も進行する可能性があると聞き、今後の復旧作業の困難さを痛感いたしました。また、復旧が遅れている背景には、連続した被災があったことも初めて知りました。令和6年能登半島地震が2024年1月1日、その後6月に追加地震があり、そして9月には能登豪雨と、立て続けに災害が発生しています。せっかく建てた仮設避難所が被災したり、復旧した箇所や工事中の箇所が再び被災するという状況を聞き、前に進むことが困難な環境であった事を復旧を行う立場として実感いたしました。

能登ロータリークラブの三宅会長からは、1月1日の地震発生後、電話も使えなくなり、従業員と連絡が取れたのが1月3日から4日にかけてだったというお話がありました。そして多くの社員が、道路の被災により移動手段がなく避難することもできず、孤立状態に置かれていたとのこと。この生々しい体験談は、災害時の通信手段の確保と事前の連絡体制整備の重要性を強く認識させられました。

また改めて重要だと感じた事は、「食事は我慢できるが、水とトイレは我慢できない」という言葉です。大規模災害が発生すると毎回言われることですが、特にトイレについては準備しきれていないと改めて感じました。

また、BCP計画についての話も大変参考になる事がありました。「無理をせず、できる部分から策定していく」という考え方、そして「まずは家庭のBCP計画から始めて、それを広げていく」というアプローチは、完璧を目指すあまり何も始められないという状況を打破する適格なアドバイスだと思いました。

実際、当社のBCP計画も事業継続というよりは、地震後に災害復旧業務に取り掛かるまでに絞った内容で作成をしています。これは発注者からの要請で作成したのですが、視点を絞ったBCP計画ができれば、次のステップに進みやすいと思います。

今回の講演について全体的な感想としましては、産官学からのそれぞれの視点での講演となったため、内容の幅が広くなりすぎて焦点を絞りきれていないという印象も受けました。しかし、逆にこの幅広さが、深く考えすぎずに自分たちができることや興味のある部分を発見

できる機会ともなりまして、参加して良かったと感じました。

そして講演を聞いた中での自分たちの業界の課題や情報提供を少し話したいと思います。

三宅会長から道路が被災して社員が孤立したとの話がありましたが、豊橋でも被災後数日はそのような状態の地域が発生するかと思います。大規模災害が発生した際に、国県市は緊急物資の輸送道路を定めていまして、その重要度から道路復旧の優先度も定めています。私たちは、その指示に基づいて復旧作業を行います。一番優先されるのが、高速道路、23号バイパス、国道1号線です。これらは、すぐにながれき撤去と段差補修を行い、どんな状態でも良いので24時間以内に車両が通れるようにする事が求められています。その次に、それらの道路を海側まで縦につなぐ道として、国道259号、247号151号、旧23号や豊橋渥美線などの道路啓開が優先され、そのあと豊橋港線、東三河環状線、豊橋大知波線、豊橋乗本線など街中や石巻方面への道路啓開となります。これを3日程度行う事を求められています。そしてこれらが終わって、初めて住宅街や市道のがれき撤去となるかと思います。ただ実際には、私たち業者も被災しているかと思いますので、どこまで動けるかはわかりませんし、国県市もどこまで被災状況を共有して指示を出せるかは未知数です。またこの地域の道路を管理する東三河建設事務所の職員の方は名古屋から通勤されている方も多く、様々な課題を抱えていますので、あくまでも、先ほどの復旧体制は一つの理想的な形として知っておいて頂ければと思います。

最後に、どうか各ご家庭で災害時のトイレについて準備をぜひお願いしまして、報告とさせていただきます。

講演を聞いて

青木一臣会員



IMでは、「東三河が備えるべき南海トラフ地震への備え」、そして事業継続力強化計画、いわゆる“ジギョケイ”についての講演を拝聴しました。

まず私が強く感じたのは、災害は“起きるかもしれない”ではなく、“必ず起きる前提で考えるべきもの”だという点です。

資料にもありました通り、令和元年以降、災害救助法が適用されたのは40都道府県にのぼります。

つまり、日本において災害は例外ではなく、日常です。

その中で問われているのは、

「発災後にどう対応するか」ではなく、

「発災前にどこまで覚悟しているか」だと感じました。

講演の中で特に印象に残ったのは、BCPは“防災”ではなく“企業を存続させる戦略”だという整理です。

初動対応や企業防災は“被害を減らすこと”が目的。一方、ジギョケイは“会社を生き残らせること”が目的。ここには大きな思想の違いがあります。

つまり、防災は守り。

事業継続は経営そのものです。

また、リスクファイナンスの話も非常に現実的でした。

被災企業の78%が「資金面の対策が最も役に立った」と回答し、65%が「自社のリスクを十分に把握していなかった」と答えている。

この数字は重いと思いました。

設備が壊れることよりも、売上が止まり、固定費が出続けることの方が企業を倒す。

従業員の給与、借入返済、リース料。

“止まっても出ていくお金”をどう備えるのか。

それを事前に計算するのが経営者の責任だというメッセージを感じました。

そしてもう一つ。

講演では、ジギョケイはA4数枚、約10時間程度で作成可能であり、無料支援もあると説明がありました。

「時間がない」は、本当に理由になるのか。

それとも、優先順位を上げていないだけなのか。

南海トラフ地震の発生確率が議論される中で、“準備していなかった”は言い訳にならない。

経営者とは、

平時に“最悪”を想定できる人間かどうかだと思います。

私たちロータリアンは、

地域の経済と雇用を支える立場にあります。

会社が止まることは、

従業員の生活が止まること。

地域の循環が止まることです。

だからこそ、事業継続は自社の問題だけではなく、地域責任だと感じました。

今回の講演は、
単なる「防災の話」ではなく、
「近い未来必ず有事が起きる覚悟の話」と捉え
この IM をきっかけに、
“いつかやる”を“今やる”に変えること。

それが今回の学びを行動に変える第一歩ではないかと思ひます。

全体を通して

高井龍雄会員



皆さん、こんにちは。
久々の報告例会ですね。国際ロータリー第 2760 地区 2025-2026 年度東三河分区分区インターシティーミーティング。豊橋南ロータリークラブさんがホストで会場はホームであるホテルアソシア豊橋で開催されました。

もちろん私は出席対象者なので登録させていただきました。

報告のお題は「全体を通して」と言う事は当然 15 時 45 分の点鐘まで出席してまいりました。

「全体を通して」感じた事を報告させていただきます。席に着き食事をしながら、この東三河 IM もガバナー補佐輩出クラブが担当するんだよなって思いながら 8 年前に当クラブも大須賀ガバナー補佐を輩出して東三河 IM をここロワジュールホテルで担当したんですね。東三河分区分には 12 クラブありまして 12 年でガバナー補佐輩出クラブとして順番が回って来ます。次年度は新城ロ

ータリークラブです。
4 年後回ってまいります。これを担当するんだなって思って全体を見た感想も合わせてお伝えします。
全体の登録は 200 名ちょいに対して豊橋ゴールドクラブは 20 名と発表がありました。1/10 です。多い登録数だと思いました。式典や講演会の報告は先ほど完璧にありましたので。
テーマである「災害への備え」について学びました。まさに旬なテーマであり地域のニーズな内容でした。また、被災された能都ロータリークラブ 23-24 年度の三宅会長にお越しいただき当時の生の声が聞けました。
やはり食料、水、何と言っても通信障害です。ツールを整えておくべき。連絡網 (SNS)、安否確認等。想定しておくべきと強く伝わりました。
浮き彫りになった課題。
ロータリアンとして取組む事、望む事。
私達も被災した時に何が出来るのだろうか。
大事なのは人の繋がり、地域の繋がり、(全国の業界組合)、ロータリーの仲間、ロータリーの繋がり、の有り難さを語ってまいりました。
私も知ると同時に様々な想定をして日頃から備えが大事だと思いました。行動してみます。
最後に。
今後も「東三河はひとつ」の心でロータリー活動を。と、おっしゃった榊原ガバナー補佐のお言葉が今後の私のロータリー活動の 1 つとして心に残った IM でした。以上、ご報告とさせていただきます。
ありがとうございました。

★ニコボックス

神谷 馨・高橋哲也：本日は IM 報告例会です。高瀬会員、後藤会員、鈴木雅人会員、青木会員、高井会員よろしくお願ひ。

廣瀨成一・鈴木紳昭・
宮川嘉隆：誕生日をお祝い頂き。

浅井大介：入会記念日をお祝い頂き。
杉田和俊・札木聖巳：会員スピーチをさせて頂き。
宮川嘉隆：出席報告をさせて頂き。

高井龍雄・青木一臣・
鈴木雅人・高瀬啓輔・
後藤浩司：IM 報告をさせて頂き。

村松 光：2760 地区、3792 地区のグローバル補助金の承認が完了し、米国のロータリー財団へ本申請することができました。実施まであと少しです。引き続きがんばります。

山口幹夫：ロータリークラブ参加支援に感謝します。
牧 岳大：ネクタイ忘れしました。申し訳ないです。今後、気をつけます。

山下 孝：元気ですか？豊橋での単身生活も残すところあと 1 ヶ月となりました。多くの出会いに感謝して楽しい思い出をつくりたいと思います。カウントダウン例会 3 回。

ガンバレドラゴンズ!! (by うどちゃん)
鈴木雅善ニコボックス委員

★幹事報告

・第 2 回豊橋東 RC オープン例会のご案内、IM 参加のお礼状、第 24 回 RI 台湾囲碁大会のご案内、名古屋和合 RC 事務局移転のお知らせ、ハイライトよねやまが届いております。

★他クラブの例会変更

- 3月 3日(火) 田原パRC 渥美RC合同例会
宝 飯RC 会場都合のため
- 3月 4日(水) 渥 美RC 免々田川菜の花桜まつり
豊橋東RC 社会奉仕例会(サシ無)
- 3月 5日(木) 田 原RC シンポジウムのため
- 3月11日(水) 渥 美RC 免々田川菜の花桜まつり